

Edulution

令和6年度千葉県教育庁教育振興部
学習指導課ICT教育推進室発行
GIGAスクール通信 vol.15 (R6.11.29)

教育 (Education) × 進化 (Evolution) の造語
「ICT」を効果的に活用することで、
教育の次なるステップを目指しましょう。



※県教育委員会ホームページのICT教育のバナーにアクセスしてください。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/giga/jouhoukeikaku.html>

情報活用能力調査～情報活用能力をどの程度身に付けていますか～

情報活用能力調査は、学習活動において必要に応じてコンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報を得たり、情報を整理・比較したり、得られた情報を分かりやすく発信・伝達したり、必要に応じて保存・共有したりといったことができる力をCBT・IRTで調査・分析したものです。

※CBT…「Computer Based Testing」の略称で、文字通り、コンピューターを使用した試験方式

IRT…「Item Response Theory = (項目反応理論)」異なる問題に回答しても同一尺度で得点化します

対象校：479校(各校1学級で実施)14, 219人

小学校161校(5年生_4, 486人)・中学校162校(2年生_4, 846人)・高等学校156校(2年生_4, 887人)

文部科学省は「教育DXに係るKPIの方向性」の中で、情報活用能力の底上げを図るため、情報活用能力調査において、

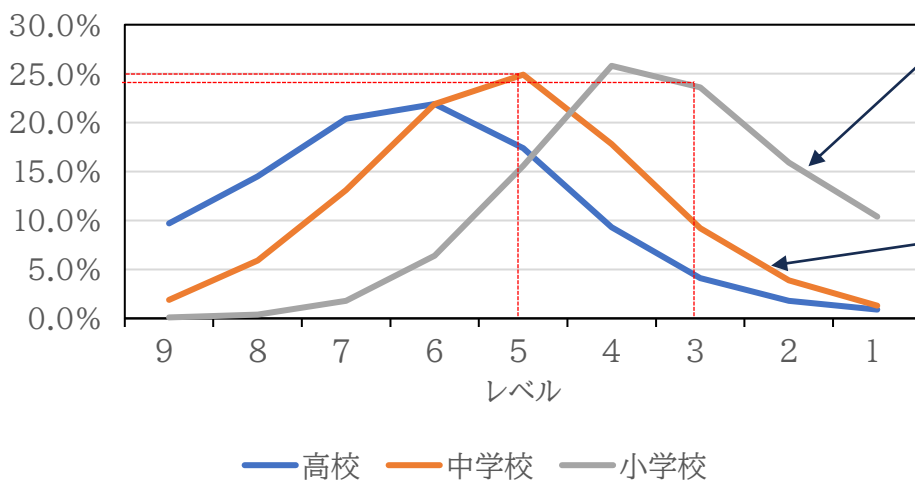
①小学校はレベル3、中学校はレベル5以下の割合を減少させること。

②キーボードによる日本語入力スキルの向上(文字/分)

小：15.8字(R4)→40字(R8)・中：23.0字(R4)→60字(R8)
という目標が設定されています。



情報活用能力 各レベルの児童生徒の割合



小学校5年生は、レベル3以下に約50%の児童がいる。これをR8年までに20%以下にする。

中学校2年生は、レベル5以下に約60%の児童がいる。これをR8年までに20%以下にする。

※レベルについての説明は次ページを参照

【タイピングによる日本語入力について】

1分間でキーボードのタッチ数であれば200回程度、日本語変換まで済ませるのであれば100文字程度の入力ができれば実用的な使い方に対応することができます。まずは自分の能力を測定してみませんか？ゲーム的な要素が排除されていて、無料でタイピングのトレーニング・能力測定をすることができるサイトを紹介します。

無料タイピング教材 <https://manabi.benesse.ne.jp/gakushu/typing/>

「教育DXに係るKPIの方向性」の中に書かれている「レベル3」「レベル5」はこの表の内容になります

調査の結果を基に想定できる各レベルの児童生徒が身に付けている情報活用能力の例	
レベル9	<ul style="list-style-type: none"> ①アプリケーション、システム、デジタルの特徴を理解している ②他人の主張に関する根拠を見つけることができる/ 複数の条件に応じて、複数の情報を検索し、選択できる ③反復処理を含むプログラムの実行結果を想定しながら修正できる ④不適切な情報を受信せずに、個人情報や著作権を保護しながら発信できる
レベル8	<ul style="list-style-type: none"> ①全角・半角・英字・数字・記号などを使い分けて入力できる ②複数の条件に応じて、複数の情報を選択できる/ 目的に応じて、グラフを選択し、修正できる ③複数の条件分岐を含むプログラムを理解している/ 目的に応じて、フローチャートを考えることができる ④不適切な情報発信を指摘できる
レベル7	<ul style="list-style-type: none"> ①ホームページ等を管理するためのアカウント権限を設定できる/ ファイルサイズの削減などができる ②信頼できる根拠を選択できる/ データの矛盾点を指摘できる ③目的に応じて、反復処理のプログラミングができる ④コンピュータウイルスの感染対策ができる/ 公開してはいけない記事の判断ができる
レベル6	<ul style="list-style-type: none"> ①目的に応じて、アプリケーションを選択し、操作ができる ②目的に応じて、情報を整理することができる/ 複数の事象を示した図を読み解くことができる ③分岐処理のプログラムの実行結果を考えることができる/ プログラムの不具合から修正すべき箇所を見つけることができる ④デジタル情報の発信に関わる肖像権、著作権等の権利やそれらを守る方法を理解している
レベル5	<ul style="list-style-type: none"> ①指定されたフォルダへファイルに名前を付けて保存できる/ クラウド上の編集権限を設定できる ②目的に応じて、情報を図、表、グラフに示すことができる ③分岐処理のプログラムをフローチャートに表すことができる ④コンピュータウイルス感染の原因について理解している
レベル4	<ul style="list-style-type: none"> ①指示に従って、アプリケーションを選択し、操作ができる ②複数のページに書かれている情報を要約できる ③簡単な分岐処理のプログラミングができる ④自分の情報を守ったり、健康に留意したりしながら情報端末を使うことができる
レベル3	<ul style="list-style-type: none"> ①指定されたフォルダを選択できる/ ファイルの共有範囲を設定できる ②複数の条件に応じて、情報を選択し、見いだした特徴を基に分類できる ③条件に応じてフローチャートを修正したり、情報処理の手順を図で表したりすることができる ④SNSの特性や著作権違反となる行動を理解している
レベル2	<ul style="list-style-type: none"> ①指定された手順通りに画像の挿入ができる ②複数の条件に応じて、情報を選択し、比較して特徴を見つけることができる ③簡単な反復処理のプログラミングができる ④情報には権利があることを理解している
レベル1	<ul style="list-style-type: none"> ①ドラッグ&ドロップなどのコンピュータの簡単な操作ができる ②簡単なグラフや表から情報の読み取りができる/ 指示された情報の比較ができる ③簡単な順次処理のプログラミングができる ④IDとパスワードの重要性を理解している

中学校2年生目標

小学校5年生目標



令和8年までに小学校5年生はレベル3・中学校2年生はレベル5以下の割合を20%以下にすることが目標なので、**小学校5年生は「レベル4」、中学校2年生は「レベル6」**ができるようになることが求められています。

情報手段の基本的な操作の習得・プログラミング的思考・情報モラル・情報セキュリティ・統計等の内容が含まれており、**1人1台端末の日常使い**と**発達段階に応じた情報モラル**への理解が必要となります。

【情報活用能力体系表】との違い
 情報活用能力体系表は「情報活用の実践力」「情報の科学的な理解」「情報社会に参画する態度」の三観点をステップ1～5に区分して、児童生徒が何ができるようになったかを体系的に示したものです。
[URL:https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afie/ldfile/2019/05/16/1416859_02.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afie/ldfile/2019/05/16/1416859_02.pdf)